種別：論文・研究ノート・書評・総説

標題：『手話学研究』への投稿について

副題：初稿の仕様および最終稿の仕様

氏名：手話 花子

所属：日本手話学会

要旨：本ガイドラインは『手話学研究』への投稿、受理、採択、最終稿の工程を簡潔に記したものです。本ガイドラインを精読のうえ、ご寄稿のほどお願い申し上げます。不明な点があるときは日本手話学会事務局までお問い合わせください。なお、本稿は初稿の雛形としても用いることができます。

キーワード：手話、指文字、非手指表出、描写述部、身振り

1. 原稿の形式、構成、および仕様

* 1. 保存形式

原稿はMS Word形式で保存されたファイル（拡張子docx）を用いる。

1.2. 分量上限

原稿の分量上限は、下記の仕様に従ったうえで、下記の通りとする：（1）論文40,000字、（2）研究ノート 10,000字、（3）書評10,000字、（4）総説40,000字（論文、研究ノート、書評、ないし総説の内容については「『手話学研究』投稿原稿内規」を参照）。

1.3. サイズ、余白、ヘッダ、フッタ、ページ番号、行番号

原稿のサイズはA4とする。

余白は下記の通りとする。上25 mm、下25 mm、左25 mm、右25 mm。ヘッタおよびフッタの設定は下記の通りとする。（1）ヘッダ：端からの距離10 mm、10ポイント 中央揃え、（2）フッタ：端からの距離10 mm、10ポイント、中央揃え。

原稿にはページ番号（フッター）と行番号を振るものとする。行番号はページごとに振りなおすものとする。

1.4. チェック

「段落」「インデントと行間隔」にある「行頭の記号を1/2の幅にする」にチェックを入れる。

2. 原稿の構成

初稿は、種別、表題、副題、氏名、所属、要旨、キーワード 、本文、参考文献、図、表の順に記す。ただし、原稿が採択された後の最終稿では、参考文献に続けて、欧文種別、欧文表題、欧文副題、欧文氏名、欧文所属、欧文要旨、欧文キーワードを記す。

3. 原稿の仕様

3.1. 種別、表題、副題、氏名、所属、要旨、キーワード、本文、参考文献

種別、表題、副題、氏名、所属、要旨、キーワード、本文、参考文献は、1段組、行間1行、両端揃え、UDデジタル教科書体NK-RないしSegoe UI、10ポイントで記す。ただしフォントはMS明朝体をはじめとする他のものでも差し支えないものとする。

著者氏名の姓と名の間は半角空けにする。

連名の場合は氏名の間は全角1字空けにし、ラテン文字表記同士の間の場合は2文字空けにする。

連名の所属が異なる場合、氏名の語尾にアラビア数字、上付きで記し、所属を記した行でそれぞれの所属の語頭にアラビア数字を記す。Corresponding Authorは、Corresponding Authorである氏名の語尾に「\*」、上付きで記し、所属を記した行の最後に「\* *Corresponding Author*」と記す。所属の次に空白1行を置く。

要旨の分量上限は日本語の場合は800字、英文の場合は400語とする。要旨の下に空白1行を置く。

キーワードは5語以内とする。キーワードの次に空白2行を置く。

本文では、章名の次に空白の1行を置く。章より小さな項目の見出しの次に空白の行は置かないものとする。

句読点は「、」と「。」を用いる。ただし日欧混在文等においては適宜、「，」ないし「．」（全角）を用いることができる（英文の場合は [,] [.]）。

また下記の機能は使用しないものとする：(1) インデントの自動設定機能、(2) 箇条書きの自動設定機能、(3) 段落番号の自動設定機能。

3.2. 参考文献

参考文献は著者名、発行年、題名、出版社（欧文の場合はその前に出版社がある都市名を併記）の順に記す。欧文では筆頭著者は姓、名の順に記し、書名はイタリック体で記す。ただし、参考文献の記述仕様は著者が慣れ親しんでいるもので差し支えないものとする。

参考文献はぶら下げ2字で記す。

（例）

手話花子（2020）「指数字と指文字」『手話学研究』1 (3)：1–10．

手話花子･指文字太郎（2000）「日本手話」非手指操（編）『日本手話』10–80．日本手話出版社．

Shuwa, Hanako, Taro Yubimoji & Misao Hishushi (2000) Japanese Sign Language. *Japanese Journal of Sign Language Studies* 30 (1): 10–30.

Yubimoji, Taro (2000) *Japanese Sign Language*. Kyoto: Nihon Shuwa Gakkai.（＝手話花子訳（2020）『日本手話』日本手話出版社．）

参考文献に係る情報は本文中に記す（割注形式）。記すときは、原則として著者姓（西暦刊行年：該当ページ）の形式を用いる。

（例）

田中 (2020：100) は～

～（Sign 200: 50）。

3.3. 図表

図はそれぞれに一連番号、題、および説明文をつける（「2. 原稿の構成」を参照）。一連番号、題、および説明文は図の下に両端揃え、、10ポイントで記す。

表はそれぞれに一連番号、題、および説明文をつける（「2. 原稿の構成」を参照）。一連番号および題は表の上に両端揃え、UDデジタル教科書体NK-RないしSegoe UI、10ポイントで記す。説明文は表の下に両端揃え、UDデジタル教科書体NK-RないしSegoe UI、10ポイントで記す。

本文には図表の挿入箇所を割注形式などで記す。ただし最終稿では図表は本文内の適当なところに置く。

図表は1枚につき400字ないし800字に換算して分量に含める。

3.4. 謝辞

謝辞は最終稿において参考文献の次に記すことができる。

4. 注（あるいは註）

注はMS Wordの脚注機能を用いる。脚注は行間1行、両端揃え、UDデジタル教科書体NK-RないしSegoe UI、10ポイントで記す。本文中に加える注の位置はアラビア数字で記す。

ただし脚注に不都合があるときは、文末注の仕様にすることができる。ただし文末脚注機能は用いないものとする。

5. 投稿および査読

毎年12月末に刊行する『手話学研究』に載録する原稿の締め切りは、原則として当年の6月30日とする。ただし投稿は随時受けつける。

受理した初稿は二重盲検形式による査読をおこなう。初稿の査読結果を受けた二稿の査読も初稿と同様におこなう。二稿の査読結果を受けた三稿の査読は編集委員会がおこない、三稿の採択の可否を決定する（ただし初稿ないし二稿が採択される場合もある）。

6. 最終稿

採択稿（初稿、二稿、ないし三稿）は「『大会予稿集』原稿執筆ガイドライン」に準じ、著者ないし編集委員会が最終稿を用意する。最終稿のゲラの校正は一回のみとする。

最終稿は『手話学研究』の刊行を待たずに、日本手話学会公式サイトの「会員の頁」にて先行公開することができる。

2023年3月2日修正